

## 「花咲き山に花が咲いたね・・・」

子ども同士の豊かな関わり合い、自分も人も大切に、そんな気持ちを育みたいと思い例年通り6月の月曜朝会で次のような話をしました。

今日は「花咲き山に、花がさいたね・・・。」という話をします。

花咲き山というお話、知っている人もたくさんいると思います。学校の図書館にこのお話の絵本があるし、道徳の授業で読んだ人もいるかもしれません。

こんなお話です。

---

『昔々の、山の村の貧しい家の女の子が、山道に迷い、ふだんめったに人が行くことのないずっと山奥の、不思議な花がたくさんさいているお花畑に迷い込んでしまいます。そこには今にも咲きそうなどともきれいな花のつぼみがありました。

そこに近寄ると、不思議なおばあさんがいて、

「その花はおまえがほしかった村祭りに着る晴れ着を我慢して、弟たちにゆずって、自分はいらないとお母さんに言ったときの我慢の涙が、今さかせる花だ・・・。」

そう、ここにある花はみんな、誰かが妹や弟や、だれかほかの人のために我慢して、人のことを思いやって涙を流したときに咲いた「やさしい心」の花のお花畑なのです。

ここにある花の数だけ、誰かが誰かを思いやって涙を流したのです。』

さて、ある学校の先生が3年生の時にこのお話を道徳の授業でしたそうです。そしてこのクラスの子たちが高学年になった5月のことです。

初めて委員会活動が始まり、どの委員会の委員になるかを学級会で決めました。そのとき、放送委員会に希望する人が多くて、一人の子がそこに入れずにすっかり元気をなくしてしまいました。

すると、その様子を見ていた仲よしの女の子が「いいよ いいよ。私が放送委員会から他の委員会に移るから、あなたが放送委員になっていいよ。」と、ゆずってくれたそうです。

そして、この、放送委員会をゆずってあげた子は、飼育・生き物委員会の委員になったそうです。

その日の夜のこと、この子は夕食の時に、悲しくて 悲しくて 泣いていたそうです。なぜかというと、ゆずってあげたのはいいのだけれども、この子は虫が大の苦手なのだそうです。それなのに虫や生き物のことを調べたり、世話をしたりする飼育委員会になってしまったのです。

それで、「あああん、一年間イモムシやいろんな虫や生き物の世話するのはいやだよ、ええん・・・。」と、悲しくて 悲しくて 泣いていたのだそうです。

この話を聞いていた弟君が「でも、お姉ちゃん、おかげできっと花咲き山にお姉ち

やんの花がさいているよ・・・。」

すると、お父さんも「そうそう、おまえが友だちのために流した涙で今頃、とてもきれいな不思議な花が花咲き山に咲いているだろうね・・・。」

そのとたんに、女の子はぴたりと泣きやんでお母さんのお手伝いを始めたそうです。

食事の用意をしているお母さんは笑顔で女の子の方を見ていました。そしてこのことをそっと、花咲き山の授業をした担任の先生に教えてくれたそうです。

---

誰かさんのためにちょっとの我慢をして助けてあげようとする気持ちってすてきだね。

さあさあ、皆さんは、花咲き山の花を咲かせた女の子のように「他の誰かが喜びとわたしもうれしいな。」と思って人のために我慢のできる子なのではないでしょうか。

それとも、「どうせ・・・。」「でも・・・。」「だって・・・。」と人のせいにして、ほかの人にやさしくできない子でしょうか。自分だったら、どうしますか…。

桃五の皆さん610人の花咲き山には、一体いくつ、人のために流した涙の花が咲いているのでしょうか。

花よりも葉っぱのほうが多いなんてことは、桃五の花さき山にはないですよね…。

さてさて、桃五の皆さんの花咲き山には、どんな花が咲いているかな・・・。

「お話終わります。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。」

子どもは大人の鏡と言われます。職員一同豊かな心を育むため努力を重ねてまいります。

